

第6回知識創造支援システムシンポジウム・プログラム（案）

期日：平成21年2月26日（木）、27日（金）、28日（土）

場所：北陸先端科学技術大学院大学

知識科学研究科5階コラボルーム（2）

主催：日本創造学会,北陸先端科学技術大学院大学

共催：石川県産業創出支援機構 文部科学省知的クラスター創成事業金沢地域

「アウェアホーム実現のためのアウェア技術の開発研究」

2月26日（木）

- 13:30-14:00 アウェアホーム実現のためにアウェア技術の開発研究  
國藤 進, 金井秀明, 藤波 努, 三浦元喜、杉原太郎, 高塚亮三  
(JAIST), 中田豊久(新潟国際情報大学), 加藤直孝(石川県工業試験場), 山口聖哉(富士通北陸システムズ)
- 14:00-14:30 プライバシを考慮した距離情報を利用した  
ベッド転落検知システム  
中田豊久(新潟国際情報大学)、金井秀明、國藤 進(JAIST)
- 14:30-15:00 認知症高齢者介護施設における情報技術の受容と行動変化  
劉 義, 山崎竜二, 杉原太郎, 藤波努(JAIST)
- 15:00-15:15 休憩
- 15:15-16:15 **[招待講演] 認知症予防回復を支援する共想法の開発と健康長寿知識の生成と共有**  
**大武美保子(東京大学)・加藤元一郎・高木利久・岩田修一・浅間一**  
[概要]共想法は、会話による認知症予防回復支援を目的として考案し、高齢者と共に開発中の新手法である。共想法では、テーマを決めて写真などの素材と共に話題を持ち寄り、時間を決めて話し手と聞き手が交互に交代しながら、会話をする。話題毎の発話頻度を計測し、後から素材を見て持ち主とテーマを思い出せるか効果測定を行う。健康や食事、食べ物等をテーマに設定したところ、よい食習慣や適度な運動を日常生活に取り入れる経験知識が顕在化し、参加者

の間で共有することができた。本講演では、共想法を紹介すると共に、知識創造支援という観点から考察を試みる。

16:15-17:15 [招待講演] 在宅認知症者に対する遠隔支援技術への取り組み

- TV 電話、思い出ビデオ、スケジュール支援など -

桑原教彰（京都工芸繊維大学）、安田清、内海章、安部伸治、森本一成

[概要] 年々増加する高齢の認知症者と彼らを在宅介護している家族への支援の充実は急務の課題である。そこで我々は家族介護者の負担軽減を目的として、遠隔のボランティアがインターネット越しに思い出の写真やビデオを見ながら、認知症者と対話できるシステムや、服薬や食事などのスケジュール管理を支援するシステムを開発してきた。本講演ではそれらシステムの紹介と、現在、千葉労災病院を拠点として続けている遠隔ボランティアと在宅認知症者の対話サービスにおいて得られた知見について報告する。

17:15-17:45 グループホームでの音声告知情報の有用性

高塚 亮三、三浦 元喜、伊藤 禎宣、藤波 努、國藤 進 (JAIST)

17:45-18:15 デジタルペンを用いたグループ KJ 法支援システム

三浦元喜、國藤 進 (JAIST)、三村 修 (みむら創造技法研究所)

18:15-19:00 移動

19:00-21:00 懇親会 (まつさき)

2月27日 (木)

9:00-9:30 集合知のための二段式協調型 KJ 法の試み

小林豊, 由井蘭隆也 (JAIST)

9:30-10:00 IC カードを利用した報奨システムの試みとその評価

岡田政則 (金沢学院大学)、平石邦彦、國藤進 (JAIST)

10:00-10:30 多様な観点からの意見を引き出すチャットシステムの提案と評価

王 慧, 西本一志 (JAIST)

10:30-10:45 休憩

10:45-11:15

11:15-11:45 試行錯誤支援の考え方について

野口尚孝 (ジャストシステム)

11:45-12:15 試行錯誤支援システムプラットフォームとしての xfy  
乙守信行, 上田俊夫 (ジャストシステム)

12:15-13:15 昼食

13:15-14:15 [招待講演] 人的環境と相乗される商品創造システム論  
田村新吾 (ソニー学園湘北短期大学)

[概要] 商品創造の工程では、客観的技法によって成果を得る面よりも、実際には、発想者、育成者、プロジェクトマネージャ等の人的環境に左右される面が強い。それも改良品と革新品ではその質的要素も異なる。本講演では、主に前例をあまり見ない「新興商品」に重心を置き、事例を加えながら、人材の資質、育成法などの人的要素と、客観的創造技法の関係を系統的に考察する。

14:15-15:15 [招待講演] 蓄積情報からの変化の抽出と再構成  
—小型衛星設計と個人行動履歴を例に—  
田中克明 (東京大学)、堀 浩一

[概要] 人間の創造活動の結果、あるいはその結果に付随するものとして、多大な情報が計算機上に積み重なっている。本講演では、この積み重なりを解きほぐすために時間に着目し、長期間にわたる人間の活動の結果として蓄積された情報から、内包されている時間経過に伴う変化を新たな創造活動のきっかけとなる知識への手がかりとして得る手法について述べる。具体的には、小型人工衛星の設計の記録、および約2か月にわたる個人の行動記録などから、そこに含まれるトピックとその変化の抽出、および操作者の視点に基づく変化の再構成を行うシステムについて紹介する。

15:15-15:30 休憩

15:30-16:00 迷子防止のための振動による位置関係情報提示装置の提案  
—カンジルホウイ—

岡田延昭、三浦元喜、羽山徹彩、國藤 進 (JAIST)

16:30-17:00 ゼミ型講義におけるテーブルトップ型グループディスカッション  
支援と評価

舟本 直、杉山公造 (JAIST)

17:30-17:30 外国人向けの日本語学習支援ゲームの提案  
許 嘉君、宮田一乗 (JAIST)

17:30-18:00 制作学に基づくデザイン創造プロセスの記述

佐野孝太郎・永井由佳里 (JAIST)

18:00-18:30 認知症介護支援環境の学生によるチーム開発の実践

伊藤禎宣, Lim Roth, 戸田 英貴, 岩本 渉 (東京農工大)

18:30-19:00 移動

19:00-21:00 夕食会 (まつさき)

2月28日 (土)

9:00-9:30 外国人研修生用工場ノウハウ取得のための研修支援システムの構築

沈 彦赫、三浦元喜、羽山徹彩、國藤 進 (JAIST)

9:30-10:00 リモートポインティングと方向キー操作を組み合わせたアイコン

選択手法

藤原仁貴, 志築文太郎, 田中二郎 (筑波大学)

10:00-10:30 人物に関連付けられた物体によるコミュニケーションシステム

野上僚司, 志築文太郎, 田中二郎 (筑波大学)

10:30-10:45 休憩

10:45-11:15 円滑な継続的創造会議のための会議間コミュニケーション支援

システム

片桐秀樹、羽山徹彩、三浦元喜、國藤 進 (JAIST)

11:15-12:15 [招待講演] アイデア創出促進のための「智慧カード」

～TRIZを手軽に体験できるカードツール～

石井力重 (IDEAPLANT)

[概要] 膨大な特許の中から「技術的ブレークスルーのパターン」を抽出し、発想の道具にした理論「TRIZ」が大手企業の技術者を中心に、注目を集めている。高度な技術的課題の解決案を考える際に、その問題を解決する可能性が高いパターンをヒントすることで、集中的に質の高いアイデアを創出できる。「智慧カード」はそのTRIZをベースに、アイデア創出を促進するためのカードツールとして開発された。本講演では、智慧カードの内容と活用事例を紹介する。また、カード実物でアイデア創出を実際に体験していただき、発想支援分野における「アナログツールの可能性」を議論したい。

12:15-13:15 昼食

13:15-14:15 [招待講演] 視覚情報を補完する静穏並列型音情報システム

宮地泰造(東海大学)、田窪勇人、渡辺正介

[概要] ユビキタスコンピューティング時代に突入した今、検索エンジンだけでは容易に獲得・整理できない訪問地での情報を提供するために、デジタルサイネージによる案内や行動支援が注目されている。観光立国日本や内需促進に向けて、デジタルサイネージの視覚情報の中に隠れている意味や視覚情報に跨る知識を、移動中の限られた時間で獲得するために、騒音を出さない音声案内システムが有効である。本講演では、同時に複数の音情報を獲得できる人間に対して、超音波により複数の音・音声案内情報を提供する手法とシステムについて、人間の脳の限界処理という観点も含めて、得られた知見を報告する。

14:15-14:45 研究計画策定時の自己内対話を促す研究アイデアマップ

中沢正江、池田 満(JAIST)

14:45-15:15 ComeCam-II: 「誰が何を見ているか」を伝えるライブカメラシステム

樋口 潤, 高橋 伸, 田中二郎(筑波大学)

15:15-16:45 書誌情報ネットワークのビュー操作に基づく文献サーベイ支援

小池 諭, 三末和男, 田中二郎(筑波大学)